

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い志を持ち、夢の実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、考え、行動し、社会に貢献する人材を育成する学校をめざします。

- 1 高い志を持ち、自ら行動し、挑戦を続ける力を育みます。
- 2 未来を切り拓き、将来の夢の実現に向けて必要となる学力と考える力を育みます。
- 3 他者を思いやる心と、地域での奉仕活動など社会に貢献する力を育みます。

2 中期的目標

1 将来の夢の実現をめざした確かな学力の育成とキャリア教育の実践

(1) 「魅力的な授業・わかる授業」をめざした授業改善に取り組む。

授業アンケート、授業見学、研修、ICT 活用等により、授業改善や工夫を行い、授業力の向上をめざす。また、主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の推進に努める。

(2) 自学自習力を育む。

家庭学習・授業外学習に取り組む力の育成とともに、読書活動の推進並びに資格取得に向けた取組みを行う。

(3) キャリア教育の充実に取り組む。

1 年次から望ましい勤労観・職業観を育む取組みや進路相談を行うとともに進路情報等の提供を行い、3 年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育を実践する。

※授業満足度 平成 28 年度 85%→平成 31 年度 90%

※家庭学習・授業外学習をほとんどしない生徒 平成 28 年度 380 人→平成 31 年度 99 人

※難関・中堅大学合格者数 平成 28 年度 17 人→平成 31 年度 50 人

※学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率 平成 28 年度 85%→平成 31 年度 90%

2 規範意識を高め、社会性、公共性を兼ね備えた人材の育成

(1) 遅刻者数を減少させる取組み及び交通安全指導を行う。

全校的で効果的な生徒指導・遅刻指導を行い、時間・規則を守る意識を育むとともに、保護者の協力を得ながら交通安全指導を行う。

(2) 学校・地域における活動を通じて生徒の主体性を育む。

学校行事、部活動、奉仕活動等のさまざまな活動を通じて、生徒に考え、行動させながら、主体性の育みをめざす。発表・出場する機会に積極的に参加させて、生徒に活躍させる。

※遅刻者数 平成 28 年度 1811 人→平成 31 年度 1100 人

※部活動加入率 平成 28 年度 68%→平成 31 年度 75%

3 活力ある学校づくりと広報・情報発信の推進

(1) 活力ある学校づくりを推進する。

国際交流の推進により、英語による生徒のコミュニケーション能力の育成を図るとともに、さまざまな教科・教育活動の場で生徒に国際的な視野を育むように努める。専門コース及び総合系設置校としての改編に対し、教科、学年団、分掌が連携して取組みを進めていく。

(2) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

創立 10 周年記念事業を通じた教育活動の振り返りを生かして、学校説明会・外部説明会・中学校訪問による広報、Web ページ等による情報発信の推進を図る。

※学校説明会への参加者数 平成 28 年度 490 人→平成 31 年度 700 人

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員「学習指導方法の工夫・改善」90%、「授業での ICT の活用」71%、「多面的な学習評価」95%、「講習・補習の実施」93%と、いずれも昨年同様に力を尽くした。今後も「主体的・対話的で深い学び」に取り組む。 ・生徒「授業以外の 1 日の勉強時間 0」44%、保護者「家庭でよく学習している」44%であり、家庭学習の定着が本校の大きな課題である。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導への肯定的回答は生徒 87%、保護者 83%と高く、教員も 77%→93%と上昇した。今後も 3 年間を見通した系統的・継続的な指導を行っていく。 <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「部活動への積極的な取組み」60%、教員「部活動は活発」75%→61%と危惧している。部活動の活性化に向け知恵を出し合っていく。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員「全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」58%→76%と上昇した。今後も、日常的に意見交換し、力を合わせて取り組んでいく。 ・保護者「本校の教育は全般的に満足できる」の肯定的回答は 79%→83%と上昇した。保護者との連携も含め、今後も一層の充実に努めていく。 	<p>第 1 回 (6/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「素直な生徒たち」は、成功体験が少なく、欲がない。生徒が満足していることでよしとせず、「もっと行けるぞ」という指導を期待する。 ・「主体的・対話的で深い学び」は、教科の学習だけでなく、規範意識の育成など教育活動のいろいろな場面に盛り込めるのではないか。 <p>第 2 回 (11/28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を自身で振り返らせる 1 年生の取組みは効果があると思う。生徒に主体的に計画させる仕組みがもっとあればよい。 ・学校行事や生徒指導など授業以外の場面でも、生徒たちに“何故？”と考えさせるアクティブ・ラーニングの取組みはできないか。 <p>第 3 回 (1/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回答の関連性を調べて、家庭学習をしない理由などが見えてくれば、対策を立てやすい。アンケート結果の詳しい分析が必要。 ・教員同士がコミュニケーションをとり、学校の目標や求める生徒像を具体的に共有して、生徒に明確に示すことが大事。その上でアンケート結果を生徒に伝え、目標と結果のギャップの理由や解決策を生徒自身に聞くのが効果的。 ・部活動は、中学生の高校選びの大事なポイント。活性化に期待する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 将来の夢の実現をめざした確かな学力の育成と キャリア教育の実践	(1) 「魅力的な授業・わかる授業」をめざした授業改善 ア 授業アンケートの活用、授業見学、研修の実施 イ ICT を活用する授業の取組み	ア・授業改善等の取組み担当を創設する。 ・授業アンケートの活用とともに、「いつでも誰でも予告なく授業見学」することにより授業改善の促進に取り組む。 ・主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）の推進に努める。 イ・ICT を効果的に活用する授業に取り組む教員を増やす。	ア・授業満足度 87% (H28 ; 85%) ・授業見学 2.5 回/人 (H28 ; 1 回) イ・ICT を活用する授業を实践した教員の割合 75% (H28 ; 71%)	ア・授業改善を担当する委員会が中心となって、「効果的な発問と生徒の主体的な活動」というテーマで、8名の校内公開授業及び研究協議を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の推進に努めた。 ・生徒の授業満足度は 88% (◎) ・教員の授業見学回数は 1 回/人 (△) イ・ICT 活用授業の実践者は昨年同様 71%だったが、非常に効果的に使用されていた (○)
	(2) 自学自習力の育み ウ 家庭学習・授業外学習に取り組む力の育成 エ 読書活動の推進 オ 資格取得の奨励	ウ・一定量の宿題・課題を出すことや講習・補習を行うこと等により、より多くの生徒が家庭学習・授業外学習に取り組むように指導する。講習・補習について、積極的に参加するよう繰り返し勧める。 エ・図書館利用率増をめざすアイデアに予算を配当し、利用率の増加を図る。 オ・資格取得をめざして講習や授業での取組みを行う。	ウ・家庭学習・授業外学習をほとんどしない生徒を半減 (H28 ; 380 人) ・講習・補習参加者 600 人 (H28 ; 536 人) エ・本校図書館利用率 35% (H28 ; 31%) オ・英検延べ受験者数を前年度比 50%増 (H28 ; 42 人)	ウ・「授業以外の一日の勉強時間 0」と回答した生徒は 325 名 (△) ・講習・補習参加者は延べ約 3400 人 (◎) ・積極的に講習に参加させることはできたが、家庭学習の習慣をつけることが課題である。 エ・利用率は 30%だったが、読書マラソンの開催など図書委員会の活動は活発にできた (○) オ・英検受験者 80 人、英検講習を実施し、2 級 2 人合格、準 2 級 17 人合格 (◎)
	(3) キャリア教育の充実	カ・1 年次から望ましい勤労観・職業観を育む取組みや進路相談を行うとともに進路情報等の提供を行い、3 年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育を実践する。	カ・学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率 87% (H28 ; 85%)	カ・将来の進路や生き方を学ぶ機会を設定しており、進路指導項目の肯定率は 87% (○) ・次年度も丁寧な進路指導と進路行事の充実に努め、肯定率を維持したい。
2 規範意識を高め、社会性・公共性を兼ね備えた人材の育成	(1) 遅刻者数を減少させる取組み及び交通安全指導 ア 遅刻指導の取組み イ 保護者と連携した交通安全指導	ア・年度当初から全生徒の規範意識の育成に努め、全校体制で遅刻者数の減少に向けて生徒の意識改革を図る。 イ・保護者と連携した交通安全指導及び意見交換会を開催して、得られた情報を生徒に伝えながら、特に自転車通学における安全確保と交通マナーの改善へ繋げていく。	ア・遅刻者数を前年度比 10%減 (H28 ; 1811 人) イ・交通安全指導を実施し、保護者との意見交換会の年 3 回実施を維持 (H28 ; 3 回)	ア・遅刻者数は 8%減の 1660 人 (◎) 遅刻防止週間の設定や丁寧かつ粘り強い指導により、遅刻数は昨年より減少した。 この数以下を維持するよう、指導を続ける。 イ・各学期に 1 回ずつ実施し、保護者延べ 25 人が参加。生徒の安全確保のために、今後も保護者に協力を求めている (○)
	(2) 学校・地域における活動を通じた主体性の育み ウ 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 エ 部活動の活性化 オ 地域での奉仕活動や交流活動の推進	ウ・前年度のアンケート結果を踏まえた上で、リーダーが活躍する場を作り、考え、行動させながら、生徒が主体となるように任せてみることにより主体性を育み、体育祭・文化祭等で成果のあがる行事をめざす。 エ・新入生への入部の勧誘に一層取り組むとともに、現部員が継続していくように、顧問を始め各教員が丁寧にフォローする。 ・部員による校内あいさつ運動や清掃活動等を奨励し、出番を作っていく。 ・中学生を招いた部活動交流により部員の活躍の場を作る。 オ・奉仕活動及び地域の交流活動（地域清掃、SGS（スクールガードサポーター）、食育活動、地域活動への出場等）へ参加する。	ウ・行事の満足度について体育祭 90%以上維持 (H28 ; 94%) 文化祭 82% (H28 ; 79%) エ・部活動加入率 71% (H28 ; 68%) ・校内あいさつ運動への参加延べ部活数 50 (部活数×回数、H29 から測定) オ・奉仕活動や地域の交流活動への参加者数 900 人 (H28 ; 860 人)	ウ・満足度は、体育祭 93%、文化祭 89% (◎) ・総括事項を次年度に引き継ぐとともに、さらに生徒の主体性を育み、その後の学校生活の充実に繋げられるよう、工夫を重ねたい。 エ・部活動加入率は 65%で、減少傾向 (△) ・部活動の良さのアピールと、充実した指導や丁寧な対応に努めたい。 ・校内あいさつ運動への参加延べ部活数 52 (○) ・男子バスケボール、演劇部等で部活動交流実施。 オ・地域の清掃、SGS、畑農業体験等への参加者数は延べ 1347 人。SGS の取組みが、「こころの再生」府民運動@スクール表彰 (◎) ・昨年全国最優秀校に選ばれた畑農業体験を中心とした食育活動を継続し、参加者を増やす工夫を重ね、学校保健会等で 3 回発表した。
3 活力ある学校づくりと広報・情報発信の推進	(1) 活力ある学校づくり ア 国際交流の推進 イ 専門コースと総合系の実施	ア・海外の学校とネット交流を活用した授業による国際交流を行う。 ・4～5月にカナダ姉妹校への9人の生徒派遣を行う。帰国後には本校生への還元ができるよう体験活動の文書報告に加え、英語による口頭での報告に取り組ませる。 ・海外から留学の大学生等を本校の授業に数週間招いて、生徒の体験を深める。 イ・専門コース及び総合系のクラスで授業が始まる。教科、学年団、分掌が連携して取組みを進めていく。	ア・海外の学校とのネット交流の企画を 1 授業で実現 (H28 ; なし) ・派遣生徒から全校生徒に対して英語による口頭での報告を 1 回実施 (前回派遣の H27 ; なし) ・海外から留学の大学生等を 1 人以上招く (H28 ; 1 人) イ・次年度に活かすため、改善点を年度内に集約	ア・追手門大、豪州パース、本校の 3 地点を結んだネット交流授業を 3 学期に 1 回実施 (○) ・生徒 9 人が 14 日間カナダ姉妹校を訪問。文化祭の開会式で英語による口頭報告実施 (○) ・関西外大のアメリカからの留学生 1 人に、4 週間の英語活動への協力を依頼し、生徒との交流を実施 (○) イ・授業内容を検討し工夫するとともに、コース選択者約 40 人のクラス分け方法や、コース変更のシステムを整えた (○)
	(2) 学校の教育活動の積極的な情報発信 ウ 創立 10 周年記念事業 エ 広報の推進 オ Web ページ等による情報発信の推進	ウ・創立 10 周年記念事業を通してこれまでの教育活動を振り返り、今後に生かすとともに、広報に役立てる。 エ・学校説明会・外部説明会・中学校訪問による広報の推進を図る。 オ・Web ページ・携帯連絡網による情報発信の推進を図る。	ウ・創立 10 周年記念誌を作成し、記念式典を開催する。 エ・学校説明会における参加者数 10%増 (H28 ; 490 人) オ・Web ページ更新回数 10%増 (H28 ; 175 回) ・携帯連絡網の学年別部分の登録者数前年度比 20%増 (H28 ; 389 人)	ウ・創立 10 周年記念式典と記念プログラム（チャリティー映画と講演会）を実施。記念誌を作成し、関係者及び機関に配付 (◎) エ・学校説明会を 3 回実施。中学校訪問時に紹介し、参加者は 10%増の 540 人 (◎) オ・Web ページ更新 10%増の 190 回 (○) 学校情報の発信に努めた。 ・携帯連絡網登録者 310 人 (△)。発信回数を増やして必要性を理解してもらい、登録者数を増やしたい。